

教員からのメッセージ

人間の心理と行動を探求して社会をよりよくなる

経済学のイメージ

「経済学」にどのようなイメージを持っているでしょうか。「なんだか難しそう」という人が多いと思います。実際、中学や高校の社会で学ぶ経済学は、国民総生産、財政赤字、少子高齢化、グローバル化といった聞き慣れない言葉が多いです。自分たちの普段の生活とはかけ離れた感じがするのも自然です。

また、「お金の儲け方を研究する学問」というイメージを経済学にもっている人も多いでしょう。私自身も高校生の時に経済学部を志望学部にしたのは、「景気や株価を予測することができればお金を儲けられる」というのが理由でした。これは間違いではありませんでしたが、大学に入ってから経済学の魅力はもっと他にもあることを知って、研究者になりました。

「景気を良くする方法を研究する学問」というものもあります。私のことを経済学者だと知った人が、私にする質問で一番多いのは、「どの株を買えば儲かりますか?」というものですし、その次に多いのは「景気を良くして下さい」というものです。

経済学は、数字ばかり扱って、人間の心を扱わない学問というイメージも一般的です。経済学者は、現実の人間や社会のことがわからない冷たい人間だと思われることも多いです。お金を節約することしか考えない人だと思われるようです。

人々がより幸福になれる仕組みを考える

確かに、経済学を学べば、株のような金融資産の運用の仕方はうまくなります。ゲーム理論という経済学の分析枠組みを学べば、ライバル会社の戦略を的確に読むことができるようになりますので、経営に役立ちます。お金の儲け方が上手になるのは事実です。景気がなぜ悪くなるのか、どうすれば景気よくなるのかというのも経済学の大きな研究テーマです。でもそれだけではないのです。

私たちは、お金だけがあれば幸福なのではありません。人間関係も重要ですし、自然環境も重要です。経済学では、人々が様々なものから幸福を感じることを認めていて、誰もが自分がより幸福になるように意思決定をしていると考えています。その上で、多くの人々がより幸福になれるような社会の仕組みは何かということを経済学では考えます。社会というと抽象的かもしれませんが、家庭、会社、学校、地域といった

ものも全て社会の仕組みです。どのように家庭や会社の中でのルールを作れば、メンバーの満足度が高くなるのかということを考えるのです。ルールを作るのは法律では、と思うかもしれませんが。法律は、具体的なルールの制定の仕方です。どのようなルールを作ればいいのかは経済学で考えるのです。

人の心を扱う経済学

現代の経済学は、人間の心を扱います。人間の心理的特性を考慮した経済学は、行動経済学と呼ばれています。行動経済学は、今注目を集めている学問分野ですが、学部で授業が提供されているところは少ないのが実情です。しかし、大阪大学経済学部では、行動経済学の研究が活発に行われていて、学部で授業が提供されていますし、多くの学部学生が研究テーマにしています。

行動経済学を紹介してみましょう。みなさんは、夏休みの宿題を最後の方にしていませんか?では、宿題を夏休みの最後の方にしていた人たちは、夏休みの前の段階で、宿題を最後にする計画を立てていましたか?多くの人は、夏休みが始まる前は、宿題を先に終わらせて、ゆっくり夏休みを楽しもうと考えていたと思います。先延ばしです。このように、将来のことは忍耐強い計画が立てられるのに、直近になるとせっかちな選択をしてしまうことを現在バイアスと呼びます。

損失回避

あなたは、次のどちらを選びますか?

- A: コインを投げて表が出ると2万円もらえて、裏が出ると何ももらえない
- B: 確実に1万円もらう

では、次の選択肢ではどうでしょうか?

- C: コインを投げて表が出ると2万円支払い、裏が出ると何も支払わない
- D: 確実に1万円支払う

多くの人は、BとCの組み合わせを選ぶことが知られています。つまり、利得の場合は、安全策を好み、損失の場合は、損をしない可能性がある危険な選択肢を選ぶのです。安全志向ならば、確実に小さな損を選ぶはずですが、しかし、私たちにとって確実に損をすることはあまり魅力的ではなく、リスクがあっても損をしない選択が好ましく思えてしまいます。損失回避と呼ばれる特性です。

ナッジ

私たちの意思決定は、予測可能な形で合理的なものからズレてしまう傾向があります。もし、そのような私たちの特性を知っておけば、私たち自身の行動だけでなく、世の中の人々の行動をよりよいものに変えられるはずですが。選択の自由を確保したまま、よりよい選択をできるようにそっと肘で押す仕組みのことをナッジと呼びます。行動経済学を学べば、ナッジで自分の生活だけでなく世の中もよりよくできるのです。私は、行動経済学を医療、仕事、防災などに応用する研究をしています。興味を持った人は、私の『行動経済学の使い方』(岩波新書)を読んで下さい。大阪大学経済学部に来れば、経済学の面白さを知って、自分の人生に役立てることが出来ます。みなさんをお待ちしています。



Fumio Ohtake
大竹 文雄 教授
Profile
京都大学経済学部卒、大阪大学社会経済研究所を経て、2018年4月より現職。